



時を越えて 継がれてゆく精神

殉職警察官 巡查部長 川村 猛

昭和 16 年 7 月 12 日、前夜から降り続く豪雨の影響で都田川が氾濫し、防波堤が崩壊、田畑も泥の海と化して非常に危険な状態となりました。

都田村駐在所勤務の川村巡查部長は住民の避難誘導や各駐在所巡查への指揮命令等を行い、荒れ狂う天候の中、勇猛果敢に職務を遂行していました。そんな活動の最中である午後 3 時 40 分頃、現在の細江町広岡において濁流に吞まれそうになった若者を間一髪で救助、泳げない若者に代わって助けを求めようと陸地を目指す途中に、大量の瓦礫や土砂に吞まれ、志半ばで殉職されました。

川村巡查部長が命を救った若者は、その後警防団に無事救助されました。

自らの命を顧みず、住民の命を救った川村巡查部長の勇氣ある行動は、まさに静岡県警察の運営指針である「県民の期待と信頼に応える警察 ～正・強・仁～」に通じるものであり、細江警察署員の誇りであり目標ともなっています。



当時の都田村巡查駐在所



慰霊碑（細江町広岡）